

- 調査対象 20～34歳の有職者（会社員・団体職員など）  
※パート・アルバイトは除く
- 調査方法 インターネット調査 ・有効回答数 750人
- 調査時期 2022年9月15日～9月21日

# 「学び」の必要性を感じている若手社会人は 69.1%

株式会社グロービスは、宮城、東京、愛知、大阪、福岡在住の20歳から34歳の有職者を対象に、「社会人と学び」に関する調査を実施した。今回は、若手社会人の「学び」に対する意識についてみてみたい。

“学び”を実践できていない  
…………… 58.3%

社会人の「学び」の必要性について尋ねた設問では、必要性を「感じたことがある」が69.1%、「感じたことがない」は15.3%で、7割近くの社会人が“学び”の必要性を認識している。

一方、「学び」を実践できているかどうかについては、「実践できていない」が58.3%、「実践できている」が28.2%となっており、「学び」の必要性を認識しつつも、実践できていないと感じている人が多くなっている。

自分にとって必要な“学び”  
がわからない…………… 34.8%

必要と感じているのになぜ実践できないのか、その理由について尋ねたところ、もっとも多かったのは、「時間がないから」で41.4%、次いで、「お金がないから」が35.9%で続いている。

時間や金銭的理由以外では、「自分にとって必要な学びがわからな

い」が34.8%、「自分が何を学びたいかがわからない」31.9%、「どの学習から手をつけるべきかわからない」が27.4%の順となっている。

厚生労働省は、いまの時代、労働者の“学び・学び直し”は不可欠であり、そのためには「労使の協働」が必要であるとしている。

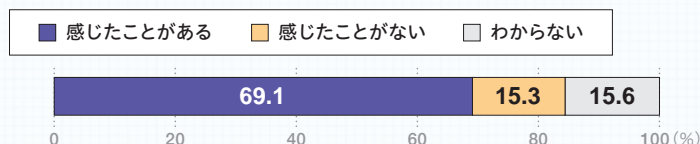
経営者は、従業員と「学び」の

必要性や方向性、目標などを共有しつつ、「学び」の機会確保や支援など社内の環境を整備することが求められている。

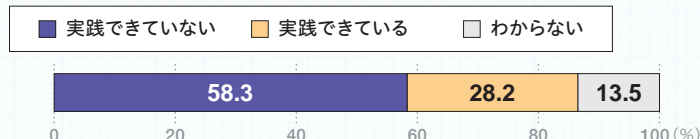
自らの「学び」がわからない悩める若手社会人を導くには、学ぶ意欲を実践につなげる仕組みづくりが必要だ。

（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）

「学び」の必要性を感じたことはあるか (n=750)



自分にとって必要な「学び」を業務外・業務時間外においても実践できているか (n=518)



「学び」を実践できていない理由 【複数回答】(n=379)

